

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(津西高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		<input type="radio"/> 高い知性と豊かな感性を備え、高い志と広い視野を持って、夢の実現に向け行動する、たくましい生徒の育成を目指す学校 <input type="radio"/> 豊かな人間性と社会性を持ち、社会の進展に主体的に対応して、国際社会、地域社会に貢献する生徒の育成を目指す学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<input type="radio"/> 確かな学力と実践力 <input type="radio"/> 本質を明確にしようとする探究心 <input type="radio"/> 高い自己肯定感
	ありたい教職員の姿	社会の変化に応じて価値観や考え方を更新し学び続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	(生徒) <input type="radio"/> 自ら学び続ける力、進路実現に向けた支援 (保護者) <input type="radio"/> 自ら学び続ける力、進路実現に向けた支援、人格の陶冶 (地域) <input type="radio"/> 地域を担う人材の輩出	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	(中学校) <input type="radio"/> 高校生活の発信 (進学先) <input type="radio"/> 確かな学力と探究心の育成 (地域) <input type="radio"/> 地域に対する理解を深める	(中学校) <input type="radio"/> 基礎学力の育成 (進学先) <input type="radio"/> 生徒の積極的な受け入れ (地域) <input type="radio"/> 学校教育(探究活動)への参画
(3)前年度の学校関係者評価など	<input type="radio"/> 特色化を一層はかってほしい。探究活動を中心に、地域のネットワークを活用した生徒支援を充実させるとともに、「津西サポートクルー」との連携もさらに深めてほしい。 <input type="radio"/> ホームページ等、中学生が「いいな」と思える広報活動をしている。授業公開でも熱心な生徒の態度を多く見ることができた。今後は、長期的な視点で、生徒どうしの対話や探究的な活動を重視した授業を展開してほしい。	

		○生徒の通学路には、交通事故が起きやすい危険な箇所が多い。自転車利用の際のヘルメット着用は自分の身を守るためにも大事なことである。着用については、生徒だけでなく保護者にも訴えかけていくことが重要だ。
(4)現状と課題	教育活動	生徒の授業アンケート結果では、本校教員の授業に対する満足度は高く、生徒は授業を通じて基礎力の習得に向け真面目に取り組んでいる。一方で、自分に自信を持たず、高い目標を掲げることに抵抗を感じる生徒が増加している。授業を中心に、計画的に個々の学習を進める自律的な学習や、対話を重視した学習の機会を増やし、教科や課題研究における探究学習を軸に思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。
	学校運営等	各分掌の主任を中心に的確な情報共有が行われているなか、事象ごとに応じた各部の連携、体制づくりが進んでいる。また、探究学習を中心に卒業生や地域の人材を活用した取組が増え、外部との連携も増えている。県民に向けては、SNSによる諸活動の発信やHPの充実、オープンスクール等の開催に取り組んでいるが、より一層的確な情報発信が求められている。教職員間の支援が多い職場風土に支えられているものの、業務量の多さと多忙感を訴える教員は多い。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育機関での学びに資する確かな学力の育成を目的として、大学等の情報収集に一層留意し、3年間を見通した学習活動を通じた学力向上を図る。 ・確かな学力の育成に向けては、手厚い学習支援を通じて安心して学べる環境を整えるとともに、自律的な学習態度の涵養に努める。また、基本的な知識、スキルの習得と思考力・判断力・表現力のバランスに留意し、特に知識やスキルの活用力の育成に注力する。 ・主体性の育成を目的として教科における探究学習や課題研究（「西考」）を軸に試行錯誤を繰り返して学びを進める力を育成するとともに、学校行事及び部活動をはじめとする課外活動を通じた人格の陶冶を目指す。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報共有を徹底し、チームとして課題解決を図る職場づくりを一層進める。 ・「西高サポートクルー」をはじめとする様々なステークホルダーとの関係を広げるなかで、地域に密着した教育活動を進めるとともに、積極的な情報収集を通じて、地域社会のニーズに応じた学校の魅力化に努める。 ・働き方改革に向け、業務縮減及び業務量の平準化を進めるとともに、学年を中心にこれまでより業務が増えつつある部署の支援に向けた体制づくりを進める。教職員が健康で意欲的に働くことができるよう、職場環境の整備、業務縮減を進めるとともに、休暇が取得しやすい環境整備に取り組む。 ・教職員としての使命と職責の重さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。

改善課題

(年度末に記載)

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>1 授業力向上</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 互見授業の実施 1回/年</p> <p>② 生徒に対する授業アンケート 3回/年</p> <p>③ 保護者に対する授業アンケート 2回/年</p> <p>④ 大学入試問題研究 1回/年</p> <p>⑤ ICTの活用及び協働学習による授業を全教員が実践</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力の向上を実感した生徒 80%以上(授業アンケート) ・ 生徒の授業満足度 80%以上(授業アンケート) <p>2 生徒の進路実現に向けた戦略的会議</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 進路研修会 5回/年</p> <p>② 国際科学科にかかる運営委員会、学力検討委員会 3回/年</p> <p>③ 主任会議 5回/年</p> <p>④ 非認知能力測定にかかる研修会 1年 2回/年 2年 1回/年</p>		
保護者・地域との連携	<p>1 中学校との連携</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地域の中学校への出前授業 10校以上</p> <p>② 出身中学校との情報共有 中学校訪問2回/年</p> <p>2 探究活動等における地域人材活用</p> <p>【活動指標】</p>		◎

	<p>① 地域人材による出前授業 30回/年 ② 地域での体験活動 10回/年</p> <p>3 異校種連携 【活動指標】 生徒による地域小・中学校での授業交流 5回/年</p> <p>4 PTAとの連携事業 【活動指標】 進路研修会 5回/年 【成果指標】 本校の教育活動について満足している保護者 80%以上 (保護者満足度アンケート)</p>		
働き方改革	<p>※「三重県立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」による 【活動指標・成果指標】</p> <p>1. 県全体で遵守すべき基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間 年360時間・月45時間超の教職員数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校時間 30時間以下 ・1人当たりの年次休暇・夏季休暇取得日数 15日以上 <p><統一的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の設定 1回/月 定時退校できた教職員の割合 100% ・部活動休養日の設定 1回/週 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・会議時間の短縮 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 100% <p>2. 県の実施計画(※)及び自校の課題に応じた目標 〔県の実施計画に基づく目標〕</p> <p>(1) 業務量の管理に関する目標(量の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1箇月の時間外在校等時間が80時間を超える教育職員 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 15.4時間以内 <p>(2) 健康確保及び働きがいに関する目標(質の目標)</p>		◎

	<ul style="list-style-type: none"> ・高ストレス者と判定された職員の割合 9.3%未満 ・(再掲) 1人当たりの年次休暇・夏季休暇取得日数 15日以上 ・相談しやすい職場環境の整備 職場環境改善策の策定・実施 1つ以上 ・教育活動に専念できる環境の構築 職場環境改善策の策定・実施 1つ以上 <p>〔自校の課題に応じた目標〕</p> <p>(1) 業務効率化による時間創出のための目標 (量に係る取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動における専門性の高い外部指導員の活用 ・校務DXの推進 保護者への調査・アンケートの電子化 100% ・会議等の見直し 職員会議の資料をクラウド上で共有 100% オンラインを活用した研修等の設定 3回/年 <p>(2) 健康確保・働きがいを向上するための目標 (質に係る取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休暇取得の促進 学校閉校日の設定 2日以上 ・メンタルヘルスキアの推進 高ストレス者に対する産業医等による面談実施率 100% ・教育職員としての「働きがい」を実感できる環境の充実 教員が希望する外部研修への参加 5件以上 		
コンプライアンスの遵守	<p>1 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識向上</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 「学校信頼向上委員会」の実施 3回/年</p> <p>② 研修会の実施 1回以上/年</p>		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)